

浅間山

○火山活動度レベル（平成16年6月1日～30日）

2（やや活発な火山活動）

○概況（平成16年6月）

火山活動は、やや活発な状態が続いています。

地震活動は2003年6月末頃から微小な地震のやや多い状態が継続しています。また、規模の小さな火山性微動が時々発生しました。

噴煙活動は、2001年6月～2003年4月までの活動が高まった時期に比べ落ち着いた状態にありますが、2004年5月頃から一時的にやや活発になる状態もみられます。火口内の温度は依然高い状態が続いています。

以上のことから、火山活動はやや活発な状態が続いており、今後も山頂付近に少量の降灰をもたらす小規模な噴火の起こる可能性はあります。山頂付近では少量の降灰や火山ガスに注意が必要です。

○地震活動の状況

2000年9月から地震活動がやや活発で、2002年6月～9月及び2003年6月末以降、微小な地震の回数が多い状態になっています。月地震回数（いずれも無感）は1,153回でした（表1、図1、図2）。

火山性微動は時々発生し（表1、図1、図2）、その規模は基準観測点（B点、火口の南約2km）での振幅が1～4 μ m/秒と小さいものの、継続時間については、2003年中には1～2分と短かったものが、2004年に入り数分～10分程度とやや長いものが発生するようになっています。

表1 浅間山 火山性地震・火山性微動の日回数（B点、2004年6月）

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	旬計	
高周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
低周波地震	45	39	55	55	36	27	45	33	32	33	400	
微動	0	0	2	2	1	1	0	0	0	0	6	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	旬計	
高周波地震	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
低周波地震	36	59	42	21	41	56	50	35	46	65	451	
微動	0	0	0	1	0	1	1	1	0	3	7	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	旬計	月計
高周波地震	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
低周波地震	28	37	26	27	29	31	29	16	49	28	300	1151
微動	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3	16

○噴煙活動の状況

2001年6月～2003年4月（極小規模な噴火の最後）までの活動が高まった時期に比べ落ち着いた状態にありますが、2004年5月頃から一時的にやや活発になる状態もみられます。

遠望カメラによる観測では、噴煙が観測できた日数は16日、噴煙高度の最高は火口縁上800m（24日）、噴煙量の最大は3（24日）でした（図1、図2）。有色噴煙は2003年4月18日の極小規模な噴火を最後に観測されていません。

浅間山 最近2年間の火山活動の推移（火山性地震、微動、噴煙、火口内温度、火山ガスの状況）

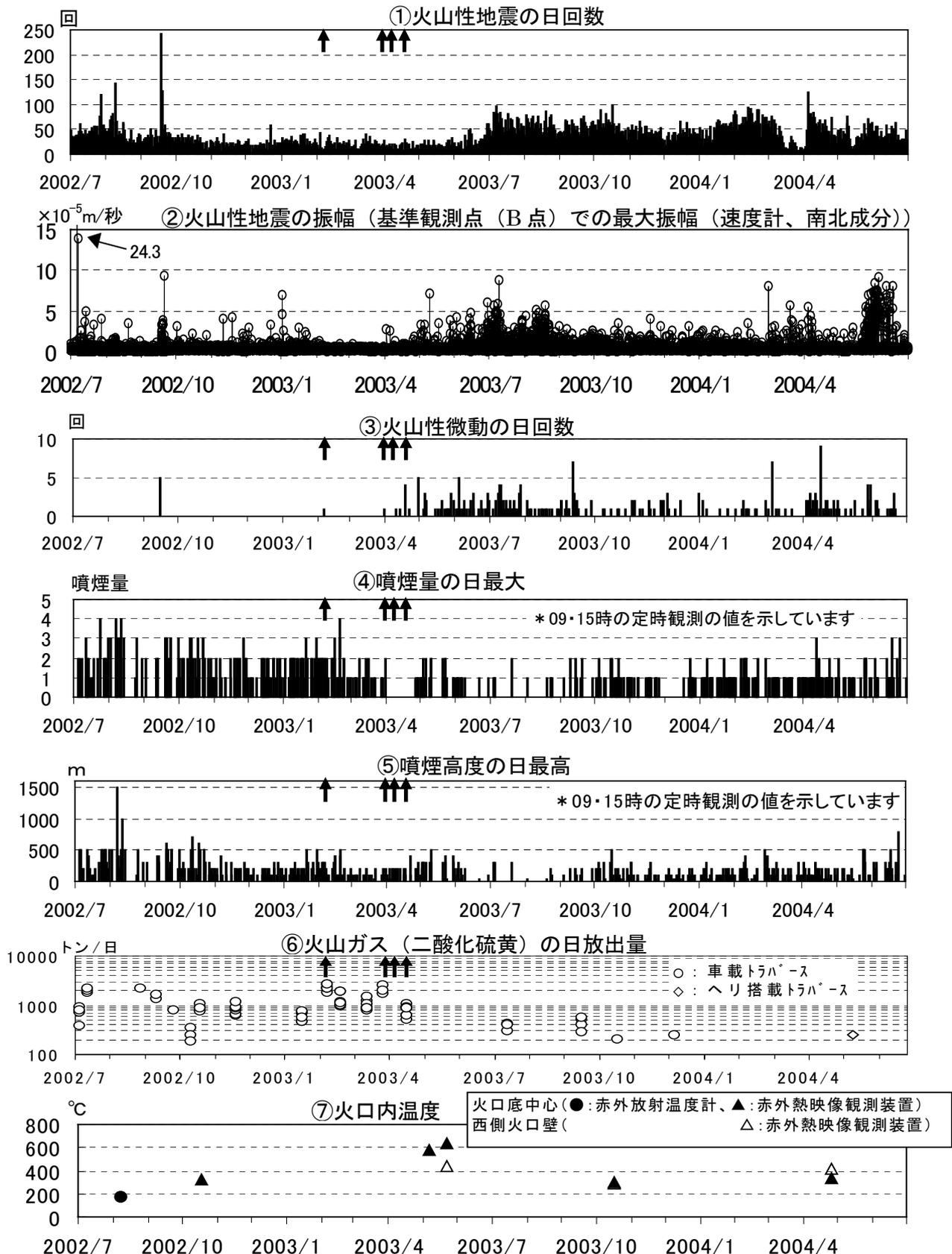


図1 浅間山 最近2年間の火山活動の推移（2002年7月1日～2004年6月30日；グラフ中の矢印は微噴火を示している）。火山性地震のほとんどは従来どおり山頂直下の浅いところで発生している（図3参照）。①②より、期間中の発生回数には大きな変化はないが、やや規模の大きな地震が目立つようになってきていることが分かる。

浅間山 1964年以降の火山活動の推移（火山性地震、微動、噴煙、火口内温度の状況）

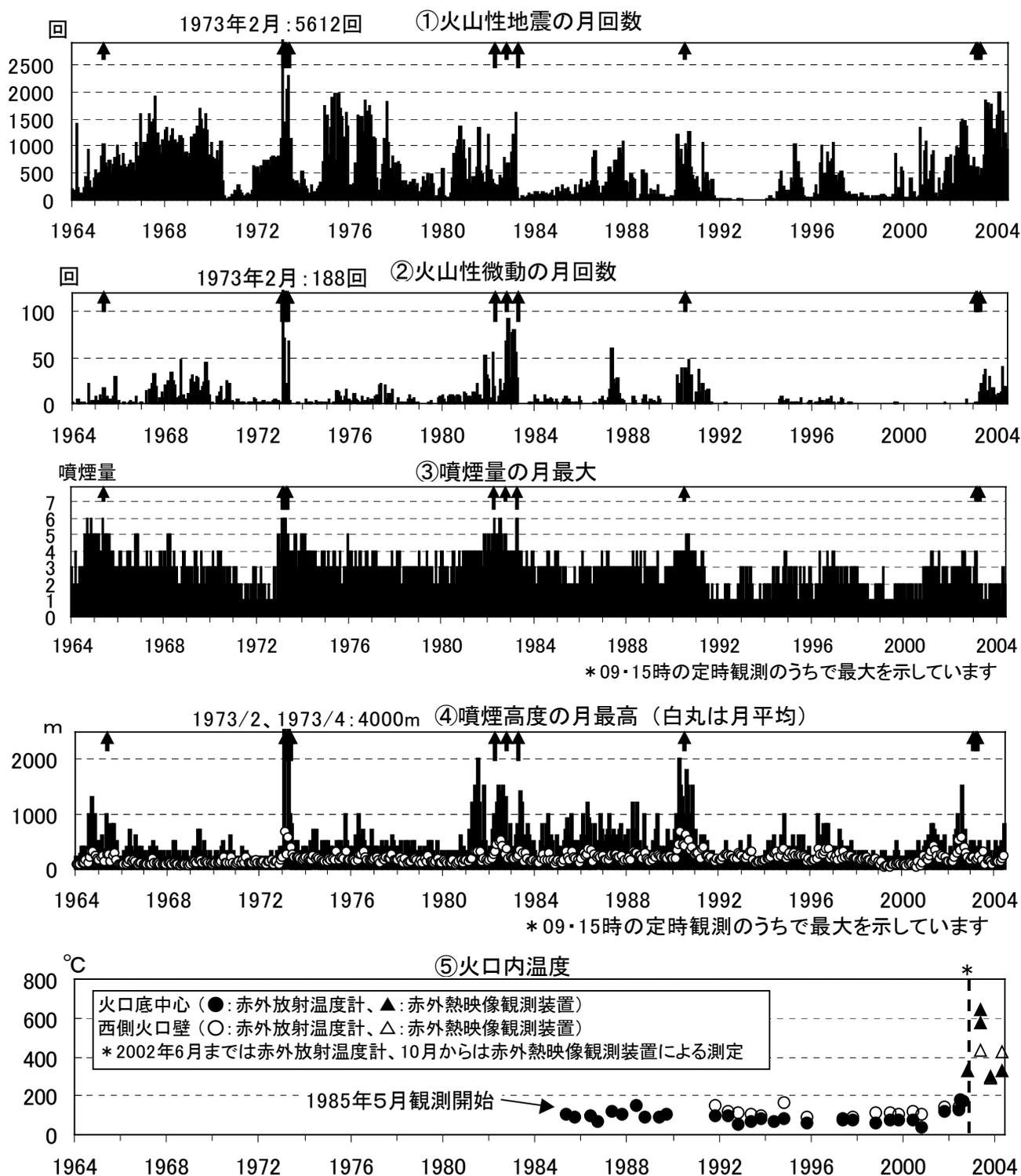


図2 浅間山 1964年以降の火山活動の推移（1964年1月～2004年6月）

上から順に火山性地震の月回数、火山性微動の月回数、噴煙量の月最大、噴煙高度（火口縁上の高さ）の月最高及び月平均、並びに火口内温度。なお、グラフ内の矢印は噴火を、短い矢印は微噴火を示している。

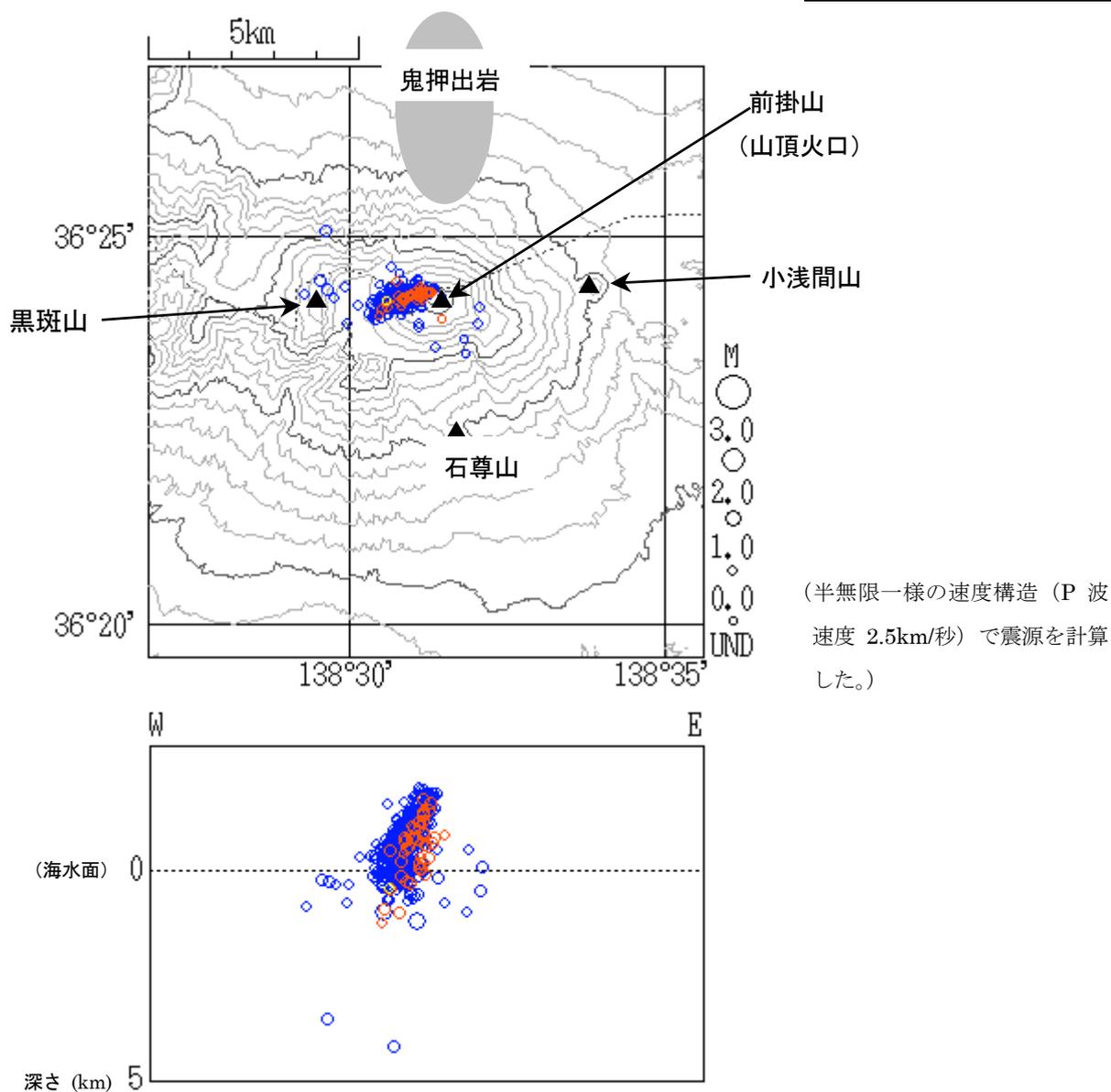


図3 浅間山 火山性地震の震源分布（上：震央分布、下：震源の東西及び深さ方向の断面；青色の○が2003年1月～2004年5月、赤色の○が2004年6月に発生した地震の震源）。

浅間山の火山性地震のうち震源が求まるものは、山頂火口から西側に数 km の範囲内で、浅いところ（海水面前後の深さ）に主に分布している。今期間に震源が求まった地震もその範囲内にあり特段の変化はない。

○火口内の温度の状況

群馬県林務部が火口縁に設置している赤外カメラにより、引き続き火口底（A噴気孔及びB噴気孔付近）に高温部が確認されています。高温の火山ガスの噴出が一時的に強まるのに対応するとみられる、高温部の面積が一時的に拡大する現象も依然観測されています。ただし、2003年前半に比べると高温部の面積は縮小してきています（図4）。

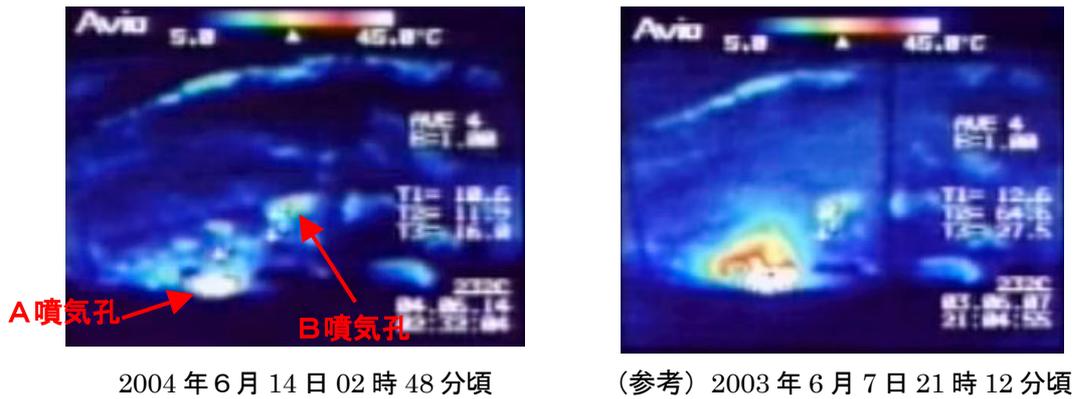


図4 浅間山 群馬県林務部が火口縁に設置した赤外カメラによる火口内温度の状況

左は今期間に高温部が一時的に拡大した時（2004年6月14日02時48分頃）の状況で、右は極小規模な噴火が発生し、火口底中心部の温度が最高で600°Cを超えるなど熱的な活動が高まった2003年前半（2003年6月7日21時12分頃）の状況。

○地殻変動の状況

山体の周辺に設置したGPSによる連続的な広域の地殻変動観測（図5）では、火山活動によるとみられる顕著な変化はありませんでした。

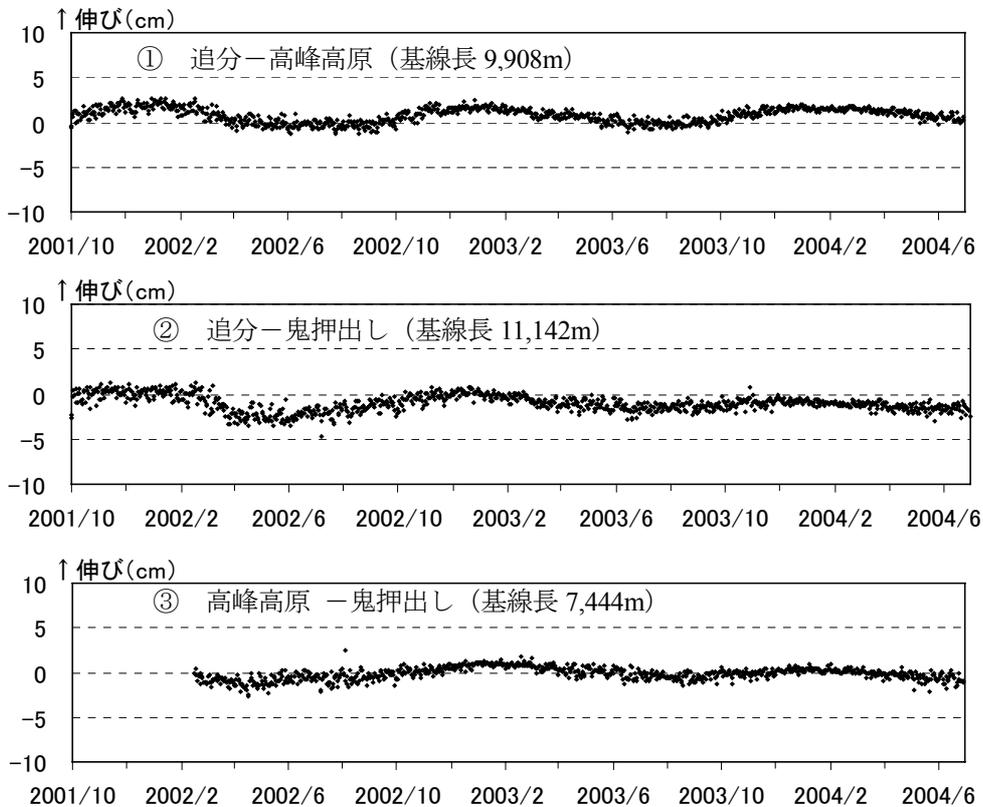


図5 浅間山 GPS 観測結果（2001年10月1日～2004年6月30日）

冬季の伸び、夏季の縮み傾向は見かけ上のもので、火山活動によるとみられる変動は観測されていない。

○観測点

浅間山の火山活動を監視するため、地震計6か所、空振計3か所、GPS3か所（3基線）、遠望カメラ2か所、傾斜計1か所で常時観測を行っています。

追分（軽井沢測候所）では計測震度計による震度の観測も行っています。

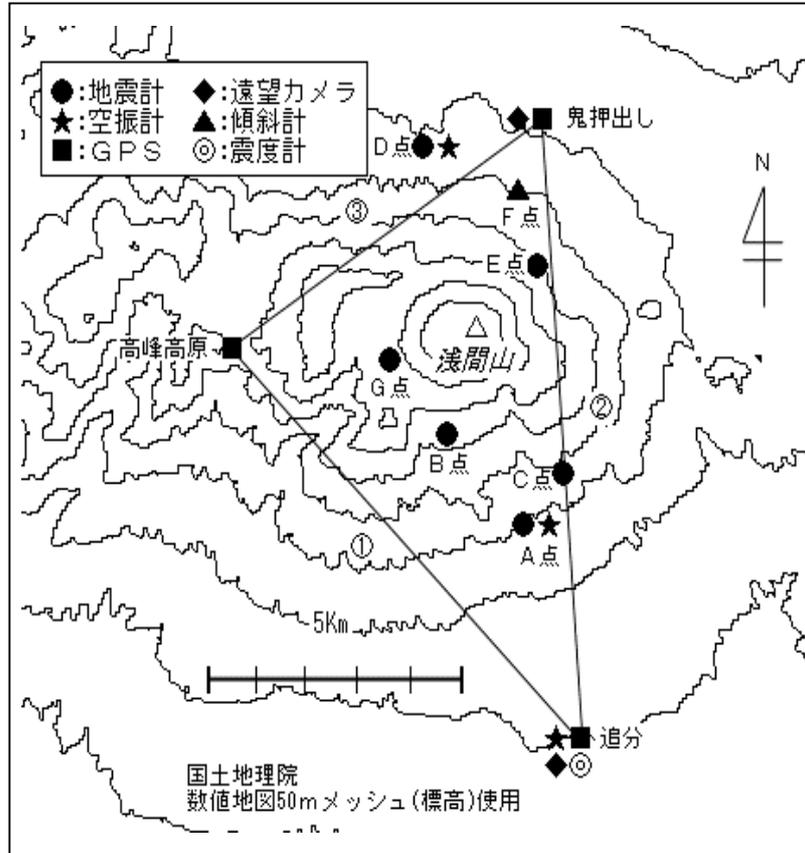


図6 浅間山 気象庁の観測点配置図